



松庵だより

第719号 6月号
令和7年5月30日
杉並区立松庵小学校



「すずめのお宿」

校長

初夏の訪れを感じる頃となりました。緑が一層鮮やかになるこの季節、特に朝のひとときは、野鳥たちのさえずりが響き渡り自然の美しさを教えてくれます。この時期は、ツバメが巣を作り、雛に餌を運び、子育てをする姿がニュースなどでよく取り上げられています。最近、我が家の庭先にも早朝、2羽のすずめがやってきます。えさをあげると人の気配を気にしながら、啄ばみ飛び立っていく毎日です。

さて、以前、本校の一期生の方から「すずめのお宿」というお話を伺うことがありました。開校当時の様子についてのお話です。松庵小学校ができる前の敷地には、大きな竹が生い茂った広大な竹林がありました。友達とバッタを見つけに竹林に入り、夢中になって奥に行くと帰り道が判らなくなり、怖い思いを何度もしたそうです。そんな竹林には夕方になると無数のすずめが飛んできて、竹がしなって揺れるほど群がり、日が暮れるまで毎日大合唱を繰り広げていました。その方のお母さんは「ここは、すずめのお宿なんだよ、追い払ったり、いじめたりしてはだめよ。」と言ったそうです。そんなある日、すずめの鳴き声が聞こえなくなり、行ってみると竹林は無くなり、まぶしく明るい大きな広場になっていました。そこには大きな竹の切り株だけが無数に残されていたといいます。それから2年後、松庵小学校が建ち、学校が始まりました。学校の様子を見て、「子どもたちの元気に通学している姿、校庭で大きな笑い声をあげながら遊んでいる姿をみると「すずめのお宿」が戻ってきたみたい。みんなこのお宿から巣立っていくんだね。」と、言って喜んでいました。

74年前の保護者の方の言葉です。当時の松庵小学校の子どもたちに寄せる温かいまなざしを感じるエピソードでした。その思いは、今も変わらず受け継がれ、現在の松庵小学校の教育活動が行われていることを実感しています。保護者、地域の方々の変わらぬ温かさや支援が日々の原動力となっています。時代の変化に伴い、形は変わろうとも、地域の根底に流れる子供たちへの思いを継承し大切にしていける松庵小学校で今後もあり続けたいと思います。

変化への順応

GIGA主任

一人一台端末が配備されてから今年で5年目になりました。日ごろの授業はもちろん、係や当番の活動、委員会活動や学校行事など、多くの教育活動で活用されています。また、昨年度の2学期からは各教室にビッグパッドも配備されました。それまでは黒板にスクリーンを貼り、プロジェクターで投影していましたが、その必要がなくなり、黒板が広く使えるようになりました。その他にも、新しいアプリやシステムの導入などといったソフト面の変化も多くあります。こういった様々な変化への順応は、ときに教員よりも子どもたちの方が早いこともあります。ICT機器が当たり前にある環境で育った子どもたちの適応力の高さには驚かされるばかりです。

一方で、課題も多くあるのではないかと感じています。機器の操作方法だけでなく、個人情報を守ることや、画面の向こうの相手を想像することといった「情報モラル」を身に付けなくてはなりません。そのためには、心を育てることが何より重要です。日々の授業だけでなく、朝のICTタイムやセーフティ教室でICTとの関わり方を繰り返し指導するとともに、全教育活動を通した道徳教育にも一層力を入れていきます。

ご家庭での充電や管理など、いつもご協力ありがとうございます。学校と家庭が連携し、子どもたちの心を育てていくため、ご家庭でも「情報モラル」について話題にいただければ幸いです。ご協力をよろしくお願いいたします。